

# 最大の針葉樹塗装型枠合板工場操業へ

## 西北プライウッド、双日・双日建材



井上セイホク社長（右）と桐山孝次  
双日建材専務

### 非構造用の販路拡大

西北プライウッド（東京都、井上篤博社長）と双日（同、佐藤洋二社長）は6日、5月から両社共同出資による型枠合板塗装会社を操業することを明らかにした。塗装型枠の生産能力は月間50万枚（12ミ、3×6判）で我が国最大となる。合板は合法性を持つ国産材及び認証済みロシア産カラ松を利用したもので、製品はFSC（森林認証）ミックスクレジット商品。

新会社はド工場（石巻市）内に設ルフィンコート（宮城県石巻市、井上篤博社長）。資本金は9800万円。出資比率は西北プライウッド51%、双日49%。塗装ライオンはセイホク（東京都、同）潮見第2

済みロシアカラ松単板を裏面に利用した複合合板。ロシアカラ松（フーチ）単板は極東の大手林産企業RFP製のもので、双日が輸入する。カラ松は同社が保有するFSC認証林区から伐出されている。製品はFSCミックスクレジット商品。今月20日過ぎに塗装ラインの整備を完了し試験操業を始める。その後、JASを取得し、5月連休明けから本格生産を開始する計画だ。双日建材（東京都、大西哲也社長）が総発売元となる。商品名は「ドルフィンコート」。

我が国の合板生産は構造用に傾斜しているが、国産材合板の多様化を目指すうえで、ロシア合板や塗装型枠合板の製品開発が課題となっている。構造用へニーズが高まるなかで、丸太の確保や生産性から非構造用合板の

先の開拓が求められている。現在、輸入合板のうち未塗装・塗装型枠合板が月間5万立方メートル（およそ250万枚）とされており、ドルフィンコートがフル操業すれば、全体の20%を確保することになる。セイホクグループの国産針葉樹合板を利用した塗装型枠は、西北プライウッドのセイホクコート（月間能力20万枚）、ホクヨープライウッドのホクヨーコート（同15万枚）、新秋木工業のアキモクコート（同15万枚）を生産している。（新栄合板工業のチサンコート同10万枚は輸入合板台

板とのライン共有のため除く）。合板生産の最大手であるセイホクグループは国産合板の需要拡大を目指している。また、双日は2015年9月に「双日木材調達方針」を制定し、合法性が担保された木材製品の安定供給を目指している。セイホクと双日の両グループは今後、こうした共同事業を通じて原料調達から製品販売まで地球環境に適合したサプライチェーンの構築を強化していく。井上社長は「合板の取り扱いはプロと認める双日グループの販売力を最大限に生かし、環境に適合し品質精度の高いもの作りを目指し、可能な限り、国産材利用率を高めていきたい。型枠のみならず、フロア合板の品質改良にも取り組む」と述べている。